

再発防止策の進捗状況（2019年6月30日時点）

(3) 検査体制・方法の改善

① 検査体制

i) 品質保証機能の独立性強化

▶戻る

具体策		
KSMにおいて、品質保証部が性能検査及び立会検査の全てを実施し、その結果を管理する等、製造部門から独立した部署による品質検査の実施を行う。また、全社・全グループにおいて最終合否判定に関わる検査員を製造部門以外への所属とする等、品質検査の独立性も強化する。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
a.KSMでは、性能検査及び立会検査の全ての検査を品質保証部員が実施する体制にしております。	2019年1月	完了
b.当社及びKSM以外のグループ企業に対して、完成検査の合否判定に関わる検査員の現状把握を踏まえ、品質検査の独立性強化について検討しております。	2020年3月	着手

ii) オイルダンパー立会検査時の検査方法の改善

▶戻る

具体策		
本再発防止策に基づく品質管理方法が確立するまでの間、減衰性能検査における第三者機関の全数立会検査を継続する。併せて、立会検査の代替方法として、第三者機関が生データを外部から随時チェックできる仕組み等の検討も行う。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
a.第三者機関による全数立会検査を継続中です。また、希望する発注者様による立会検査も実施しております。	2018年11月	実施中
b.KSMでは、新検査機導入に合わせて、発注者様及び発注者様が指定する第三者機関がサーバを介して検査情報のチェックができる等の「新検査システム」の構築を進めております。 また、既設の全検査機の同システムへの移行も順次行います。	2020年4月	着手

iii) 検査マニュアルの整備

▶戻る

具体策		
オイルダンパーを含む当社グループ全製品の全検査行程にて、熟練検査員のカン・コツに頼っていた検査・判断をマニュアルとして整備する。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
KSMでは、カン・コツに頼っていた判断等のマニュアル整備のために検査の工程図、QC工程表、オイルダンパー検査機の作業チェックポイント等の新規作成及び見直しを実施いたしました。 今後、当社品質本部がKSM以外の当社及びグループ企業について、同様の確認を行います。 (自社6拠点と国内6社、海外9社を対象としております)	2020年3月	実施中

②検査機の不不正防止措置

i) オイルダンパー検査機のソフトウェア変更の社内手続厳格化

[▶戻る](#)

具体策		
オイルダンパー検査機のソフトウェア変更手続きについて、K Y B 本社品質管理部の承認取得を義務づける。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
オイルダンパー検査機では、検査システムのソフトウェア変更の際は、当社の品質本部の承認を必要とする旨の「変更管理規則」の改定を実施いたしました。	2019年4月	完了

ii) オイルダンパー検査機ソフトウェアの定期的モニタリング

[▶戻る](#)

具体策		
品質保証部等の製造部門から独立した部門による品質監査でオイルダンパー検査機のソフトウェアの状況を定期的にモニタリングする。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
当社品質本部にて、KSMに対してオイルダンパー検査機のソフトウェアの独立的監査を、毎月実施しております。	2019年3月	実施中

iii) 人為作業を介さない検査結果の自動記録化

[▶戻る](#)

具体策		
性能確保に必要な生データ（設定値、入力値、計測データ等）を検査機内に自動的に保存するとともに、個々の製品が世の中で使用されている期間は本データを外部記憶媒体内（サーバなど）に自動的に保存される仕組みを導入する。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
KSMでは、新検査機導入に合わせて、人為作業を介さず自動で検査結果をサーバへ保存する等の「新検査システム」の構築を進めております。また、既設の全検査機の同システムへの移行も順次行います。	2020年4月	着手

iv) 検査プロセスの自動化推進

[▶戻る](#)

具体策		
検査成績書出力までの検査プロセスを自動化することにより、データ改ざん防止の仕組みを導入する。また、抜き打ちで品質管理部門の責任者が生データと検査成績書を照合する等、チェックできる仕組みを導入する。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
a. KSMでは、新検査機導入に合わせて、人為作業を介さず自動で保存された検査結果から検査成績書出力する等の「新検査システム」の構築を進めております。 また、既設の全検査機の同システムへの移行も順次行います。	2020年4月	着手
b. 現在、当社品質本部にて、KSMに対して抜き打ちで検査成績書と生データを照合する独立的内部監査を毎月実施しております。 また、同監査は「新検査システム」の構築後も継続いたします。	2019年3月	実施中

v) オイルダンパー検査機へのアクセス管理の強化

[▶戻る](#)

具体策		
生データへのアクセスが特定の者に制限されている仕組み、および第三者機関が生データを外部から随時チェックできる仕組みを導入し、生データの保全措置を図る。		
詳細	実施または完了予定年月	進捗状況

KSMでは、新検査機導入に合わせて、「新検査システム」を構築する過程で、有効なサーバへのアクセス権管理の仕組みも検討しております。また、第三者機関が、サーバを介して検査情報のチェックを可能にすることにより、独立性の高い生データの保全措置を講じてまいります。

2020年4月

着手

vi) 性能試験データのトレーサビリティ確保

▶戻る

具体策

オイルダンパーの製品の検査履歴・要求性能・生データを記録する媒体をオイルダンパー本体に装着するなど追跡調査可能な検討を行う。

詳細	実施または完了予定年月	進捗状況
KSMでは、新検査機導入に合わせて、「新検査システム」を構築する過程で、オイルダンパーそれぞれの要求仕様及び検査結果をシリアル番号で検索する等の一元管理の仕組みを検討しております。	2020年4月	着手

[このページの先頭へ](#)